「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

学報 News CATY（ニュース　キャティ）

２０２２年11月　第148号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
広報委員長　佐野　博之

齊藤さん日本歌人クラブ賞

第16回ジュニア短歌大会 芦田さんは優良賞受賞

日本歌人クラブ主催、文化庁、毎日新聞社、東京都教育委員会後援の「第16回ジュニア短歌大会」で、短歌を学ぶ国文学科の学生が「日本歌人クラブ賞」・「優良賞」を受賞しました。本大会では19年と20年に毎日新聞社賞を受賞。また19年には角川文化財団主催の学生短歌会対抗超歌合「第6回大学短歌バトル2020」予選会で、初出場ながら強豪校を抑えて首位通過を果たすなど、快挙が続いています。国文学科では「文芸創作展開Ｃ（通年・2年次）」で短歌・俳句を創作し、学生部会「句歌会」が歌誌『ツキハレ。』を発刊しています。

（国文学科教授・句歌会顧問／月岡道晴）

日本歌人クラブ賞

札幌に薫り満ちたりアカシヤの冠につく「ニセ」のさびしさ

齊藤快成　国文学科1年

『金木犀を知らない僕ら』　道民は金木犀を知りませんが、アカシアやライラックなら知っています。しかし、そのアカシアは北米原産の外来種であり、それゆえ冠に「ニセ」と付く。札幌には並木通りがあり「アカシヤ」と呼ばれ親しまれているのに、なんだか寂しい気持ちになります。

この度は思わぬ大賞を頂きました。全ては月岡教授による日々のご指導の賜物です。私の所属する句歌会は、週一で金曜5限終了後に開かれます。お題から句歌を詠み、互いに批評することが主な活動です。句歌会は現役歌人から直接ご指導を頂ける貴重な場であり、温かい空間です。昨今のSNSを中心とした短歌ブームの中で、存分に戦えるように感性を表現する力を身に付けていきたいと思います。（国文学科1年／齊藤快成）

優良賞

右目尻をぐるりと左目尻まで繋げるように母は破顔する

芦田聖月　国文学科2年

『笑い皺が破顔になるまで』　この度は優良賞を頂きまして、大変光栄に存じます。この作品は短歌を学ぶ講義での課題に対して作ったものです。課題の度に苦戦していましたが、この作品では大好きな母を題材に選んだため、楽しく作ることができました。講義では短歌を作る際、「良い子にならず、不謹慎に作るべし」と教わりました。不謹慎とまではいきませんが、母の目尻の笑い皺を誇張して表現したことは、私にとって挑戦的な取り組みでした。お気に入りの作品をこのように評価して頂けたことに感謝しております。

これからも短歌の創作を通して、言葉と感性を磨いていきたいです。（国文学科2年／芦田聖月）

コロナ禍で3年ぶり

スプリングフィールド大学 学生4人短期留学

10月8日～30日、滝川市と姉妹都市である米国マサチューセッツ州スプリングフィールド市にあるスプリングフィールド大学での短期留学に4名の学生、田中一徳教授、南孝典准教授と参加しました。現地では、キャンパス内にある学生寮に滞在し授業を受けました。

この研修で一番学んだことは、「自分で行動を起こさないと何もできない」ということです。スプリングフィールド大学の学生は、積極的に行動を起こします。毎日のように大学内の様々な場所で学生主催のワークショップ等のイベントが行われ、授業以外でも日常的に企画力や実行力を育んで学んでいるのだなと感じました。私たち短大生も、滝川や日本の魅力を伝えるために「紙袋ランターン」作りや伝統文化の紹介などを行いました。準備の大変さや集客や人に伝えることの難しさを学ぶと同時に、協力しながら作り上げることの達成感や笑顔になってくれる人がいることへの喜びを感じました。

また、つたない英語で話している私たちの言葉を理解しようとしてくれ、わかりやすい言葉で伝えてくれる現地の学生の優しさも感じることができました。多くの学生と交流する中で、私はうまく言葉に表せなくても積極的に話しかけることを意識しました。この経験を糧に、今後も自分から行動を起こし何事にも積極的に取り組んでいきたいと思います。（幼児・児童教育学科児童教育コース2年／伊木真実）

稔りの秋を迎えて

稲刈り・脱穀を体験

私たち児童教育コース2年生は、稲作体験活動を通して日本の文化や歴史・農業にふれる貴重な機会を10月5日に稲刈り、11月9日に脱穀・籾すり・精米を体験しました。

今年は、6月の田植えから江部乙小学校の5年生の児童の皆さんと、継続して取り組んできました。とんぼの会の農家の皆さんのお世話で順調に育った黄金色の稲穂を前に、稲刈り鎌を使っての仕事は、慣れるまで大変でした。刈り取った稲をまとめて稲わらで縛るのも一苦労でしたが、教えられた通りに見よう見真似でやっていくうちに、できるようになりました。少し自慢げに小学生にも教えてあげました。自分で植えた苗が立派に実り、自分の手で刈り取るという貴重な体験でした。

1カ月後、とんぼの会の皆さんが稲架がけして乾燥させた稲を脱穀する日です。今回は、農作業の歴史にふれていただき、昔の脱穀の仕方である足踏み脱穀機と電動の自動脱穀機を使って、脱穀体験をしました。脱穀をした後の玄米を籾すりして、精米する過程も教えていただき、米が食べられるようになるまでの流れを理解することができました。農家の人たちの美味しいお米を育てる苦労の一端を知ることができました。12月には、収穫感謝祭を開いて、お世話になった皆さんにお礼を伝える予定です。（幼児・児童教育学科児童教育コース2年／林明日香、白岩楽）

音楽を通して英語を学ぶ

外国人講師招きＩＣＤ

11月19日、総合教養学科では毎年恒例のＩＣＤ（インターナショナル・コミュニケーション・デー）を滝川市民交流プラザ（ホテルスエヒロ内）で開催しました。

今回はケンレイ・フリーセン講師（北海学園大学）をメインスピーカーに迎え、〝Learning English Through Music〟（「音楽を通して英語を学ぶ」）と題して、「ヘイ・ブラザー」（アヴィーチー）、「ムーンライト・リリックス」（グレース・ヴァンダーウォール）、「コンプリケイテッド」（アヴリル・ラヴィーン）の3曲を題材に、歌詞を聞き取って実際に歌ってみるという活動を行った。

参加した学生はグループに分かれ、各国出身のゲストティーチャーの指導を受けながら、曲を聞いて歌詞を理解し、各自持参したスマートフォンのボイスレコーダーで自分の歌声を録音していた。また、カフート（ノルウェー科学技術大学のプロジェクトによって開発された教育用ゲームのプラットフォーム）を利用した曲当てクイズも行われ、スマートフォンで答えた結果はすぐに会場のプロジェクターに投影された。

学生たちは最初のうちはやや慣れない様子だったが、フリーセン講師の説明を聞き、ゲストティーチャーの助けを借りながら活動し、次第にリラックスして課題に取り組むようになった。

フリーセン講師は「歌は英語を学ぶためのよい教材です」と言う。学生たちは今回の活動を通してそれを十分に学ぶことができた。（総合教養学科教授／二ノ宮靖史）

「お金」の見識深める

マネー講座

10月13日に幼児保育コースの教員と学生が所属する幼児教育研究会主催で「マネー講座」が開催されました。コープさっぽろ共済推進室よりライフプランアドバイザーの方々をお招きし、求人票や給与明細の見方、社会保険やキャッシュレス決済など様々な「マネー」の話題について講演していただきました。

1年生からは「お金のことは親に任せていたが、将来のためにも給与明細など細かい部分を知ることができて良かった」「収入と支出についてよく考えようと思う」などの感想が。また就職活動中、あるいは既に内定済みで本格的に卒業後の生活を意識し始めた2年生からは「社会人として大切な知識を得ることができた」「就職活動中なので、求人票の見方や社会保険の制度について大変ためになった」といった感想が聞こえてきました。

学生生活や将来の生活における「お金」やそれに伴うキャリアについて、具体的な意識が作られる経験となったようです。（幼児・児童教育学科幼児保育コース長　准教授／菅原健太）

箱根での活躍に期待

駅伝チームが滝川で合宿

9月1日～4日にわたって滝川で合宿を行った國學院大學陸上競技部駅伝チーム。深川、北竜でもロード練習を行いました。その成果が実り、大学三大駅伝の初戦、10月10日開催の出雲駅伝は2位、第二戦、11月6日開催の全日本大学駅伝では大会新記録、過去最高の2位でゴールしました。

中西大翔主将は滝川合宿の歓迎セレモニーのあいさつで、「優勝を見据え、三大駅伝すべてで表彰台を狙いたい」と意欲をみせていました。今季の目標達成まであと一つです。来年1月2、3日に開催される箱根駅伝でも、引き続きご声援をお願いします！

国文学科卒業論文発表会

◇日時　12月11日(日)13時～
◇場所　ホテルスエヒロ
◇内容　伝承文学・中古文学・近現代文学・中国文学・神道学・歴史学・教育学等に関する卒業論文の口頭発表会
◇地域の皆様も参加できます。参加費無料。

まだ間に合う！指定校制学校推薦の受験チャンスあり！

出願期間：令和４年11月28日(月)～12月９日(金)まで
試験日：令和４年12月17日(土)

小学校教諭や保育士・幼稚園教諭の資格取得可能！！